明日のくらし、ささえあう
CO·OP共済

地域ささえあい助成

―生協と他団体が協同する活動を応援します―

2012年度 活動報告集

日本コープ共済生活協同組合連合会

（本誌について）

コープ共済連では 1996 年から 15 年間、コープ共済連設立前の日本生協連において、生協の福祉活動を推進する目的で生協福祉活動推進助成事業を実施していました。共済事業の剰余金から１年間で約 2,500 万円、１次を５年間とし 2010 年度までの３次（合計 15 年間）で約 3 億 7,500 万円を助成しました。この助成事業は、特に「くらしの助け合い活動」や「子育てひろば」の取り組み等に大きな役割を発揮し、活動のきっかけづくりや新規立ち上げにおける財政的な基盤となってきました。この 15 年間で本事業の助成対象となる分野の福祉活動については、一定の広がりができ、子育て支援活動においては、自治体からの支援も可能となるなど、一定の役割を果したため、2010 年度に終了しました。

しかしながら、今後も生協内の活動に留まらず、限られた資源を有効に活用して「日本の生協の 2020 年ビジョン」の実現に寄与し、地域社会に貢献するための取り組みとして、2012 年度より「ＣＯ･ＯＰ共済 地域ささえあい助成」を実施することとしました。

本報告書では、2012 年度（第１回目）の「地域ささえあい助成」における助成団体における取り組みをご報告いたします。

はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、2012年度社会貢献活動として「ＣＯ･ＯＰ共済 地域ささえあい助成事業」を開始しました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化、貧困などくらしに関する困難さは、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行っていかなければ、解決できない状況になってきています。

そのため、本助成事業では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにいたしました。「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」「女性と子どもが生き生きする」という３つのテーマにそった、生協と他団体が協同で行う取り組みについて助成をしています。

第１回目となる本助成は、2012年度６月より募集を開始しました。募集の広報に十分な期間がとれなかったにもかかわらず64件と多数の応募をいただき、これらの中から34件を助成案件として選定しました。

なお、選定にあたっては①生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度、⑥活動の新規性や先駆性という選考基準を設けました。64件の応募の活動については、いずれも地域のくらしの問題解決に役立つものでした。評価基準に沿って審査を進めましたが、中でも特に重点的に審議した項目を以下のようにご紹介します。

協同によって、従来の活動の範囲が広がる取り組みである

生協と地域の自治会、社会福祉協議会、地域のＮＰＯなどの他団体が協同することによって、活動範囲が地域に広がる取り組みを積極的に評価しました。

生協と協同する「他団体」が、生協から派生する団体、関連の深い団体というケースがありました。この場合、活動内容が従来の生協の活動の範囲内で、地域での新たな関わりが生まれることが読み取れないことも多く、残念ながら助成可能と判断できませんでした。

今後は、地域でのささえあいを実現するためにも、従来の活動範囲にとらわれず、社会福祉協議会、ＮＰＯ法人などをはじめとした地域での新しいつながり作りに取り組み、本助成を活用いただくことを期待します。

協同団体それぞれの役割が明確であること、関わりが深いことを評価

協同の活動の中でも生協と他団体それぞれの役割が明確であることを評価しました。さらに単に「会場を貸す」「広報する」「物資提供の便宜を図る」「講師をする」などの関わりでなく、共に活動を企画、運営するなど関わりが深いことを評価しました。

被災地の自立支援や支援する側が地域で協同することに評価する

被災地域の状況は、復興にむけて求められるニーズが変化しています。審査時点では、被災地域自ら復興にむけて取り組めることが重要であるため、被災者のニーズに基づくことを評価しました。

また、協同するという視点では、支援する側が単独団体でなく、複数団体で協同して被災地に支援することに着目しました。協同して被災地支援をすることを契機に、各地域での協同が進むことを期待します。

助成対象となった団体には、活動を通じてより地域でのささえあいを

助成対象の団体の活動は、いずれも地域での協同が実現するものであり、地域住民によるくらしの向上につながるものと思われます。今回の助成金をきっかけにより地域でのささえあいが前進することを期待します。

2012 年度 ＣＯ･ＯＰ共済 地域ささえあい助成事業 審査委員会
委員長 上野谷 加代子（同志社大学 社会学部 教授）

目次

はじめに …… 1
2012年度　ＣＯ･ＯＰ共済　地域ささえあい助成事業　審査委員会
委員長　同志社大学　社会学部　教授　上野谷 加代子
2012年度「地域ささえあい助成」の助成決定一覧 …… 4

活動報告書
【テーマ１】「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」
ならは盛り上げ隊：
仮設住宅内のｺﾐｭﾆﾃｨ活性活動と物販開発による被災者の自立支援活動 …… 5

パルシステム千葉：
地域・産地・組合員・生協 みんなでつくる旭の“和” …… 6

パルコープくらしのたすけあいの会 大阪北支部：
頭もからだも「ちょっと動かし、ちょっと使い」元気になろう …… 7

住之江区キャラバンメイト連絡会：
住之江区キャラバンネット …… 8

安心して住み続けられるまちづくりの会：
高齢者に寄り添い、安心して住み続けられるまちづくりをすすめる活動 …… 9

ＮＰＯ法人きずな：
買い物弱者支援活動・食生活支援活動、復興支援募金活動 …… 10

福井県民生協 くらしの助け合いの会：
他団体との連携 事例研究会 …… 11

おかやまコープ：
被災地支援活動 …… 12

東京ボランティアネットワーク：
東日本大震災被災者支援活動 …… 13

鳥取県生協：
まちなかくらし助け合い活動 …… 14

松江保健生協：
地域ケア連携フォーラム実行委員会 …… 15

いばらきコープ：
牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援 …… 16

小幡寺子屋実行委員会「見守り促進隊」：
対話・相談とつながる「見守り会員・解決支援組織のネットワーク」づくり …… 17

みやぎ県南医療生協：
被災者への健康づくりや相談とふれあい活動 …… 18

セカンドリーグ埼玉：
アレルギーで悩んでいる人を支援するサポーター育成 …… 19

高知医療生協：
全県一斉「くらしといのち相談会」の実施 …… 20

【テーマ２】「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

エフコープ：
バリアフリーイベント「みんなでふくし」 …… 21

あいコープみやぎ：
お茶っこスペース「よってがいん」 …… 22

反貧困、暮らしと雇用、営業をまもる長野地域ネットワーク：
居場所を拠点にした生活困窮者の自立支援活動 …… 23

東京西部保健生協：
孤独死・孤立死のないまちづくり たまり場「大原さんち」開始と運営 …… 24

支援者のための支援センターTOMONY：
東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動 …… 25

生協ひろしま：
地域活動の拠点整備：地域ふれあいセンター「寄ってこ～家」の運用 …… 26

福祉クラブ生協：
成年後見事業 …… 27

おおさかパルコープ：
福祉地域拠点づくり（榎本地域活動協議会と協同し地域活動の推進をめざす） …… 28

【テーマ３】「女性と子どもが生き生きする」

コープえひめ：
子育て応援 子育てひろばの設置 …… 29

ちばコープ：
親子で楽しく安心して集えるSmile八街の森づくり …… 30

福井県民生協　ハーツきっずたけふ：
プレママ期（妊娠時）から地域の中で活き活き子育て …… 31

北医療生協：
ファミリーサポートプロジェクト 子育てひろば（にじっこひろば） …… 32

コープぎふ　おたがいさまひだ：
地域の方が集い、交流する場を広げよう …… 33

コープこうべ：
小学生の放課後サポート事業「コープ放課後キッズクラブ」 …… 34

コープ自然派奈良：
生き生きコミュニケーション・楽しく子育て …… 35

2012年度　募集要項 …… 36

2012年度　CO･OP共済　地域ささえあい助成　助成先一覧

① くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

	団体名
1	ならは盛上げ隊
2	福岡県生活協同組合連合会
3	パルシステム千葉
4	ﾊﾟﾙｺｰﾌﾟくらしのたすけあいの会
5	住之江区ｷｬﾗﾊﾞﾝﾒｲﾄ連絡会
6	安心して住み続けられるまちづくりの会
7	NPO法人　きずな
8	福井県民生協　くらしの助け合いの会
9	おかやまコープ
10	東京ボランティアネットワーク
11	鳥取県生協
12	松江保健生協
13	いばらきコープ
14	小幡寺子屋実行委員会「見守り促進隊」
15	一宮生協北部支部ボランティアの会
16	松島医療生活協同組合　福祉ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会
17	みやぎ県南医療生協
18	セカンドリーグ埼玉
19	高知医療生協
	(19団体)11,606,000円

② 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

	団体名
1	エフコープ生活協同組合
2	あいコープみやぎ
3	反貧困、暮らしと雇用、営業を守る長野地域ﾈｯﾄﾜｰｸ
4	東京西部保健生協
5	支援者のための支援センターTOMONY
6	生協　ひろしま
7	福祉クラブ
8	おおさかパルコープ
	(8団体)5,438,000円

③ 女性と子どもが生き生きする

	団体名
1	コープえひめ
2	ちばコープ
3	福井県民生協　ハーツきっずたけふ
4	北医療生協
5	コープぎふ　おたがいさまひだ
6	生活協同組合コープこうべ
7	コープ自然派奈良
	(7団体)3,105,000円

(※)一部、申請金額より減額により助成とする。

総合計(34団体/応募:64団体):20,149,000円

【テーマ 1】

くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

ならは盛り上げ隊

活動名：仮設住宅内のコミュニティ活性活動と物販開発による被災者の自立支援活動

協同した団体：パルシステム生活協同組合連合会、元気玉プロジェクト（会津若松市）

活動内容概要

東日本大震災に伴う福島第一原発の事故により、会津若松の仮設住宅で避難生活を送る楢葉町の方々が製作する「布ぞうり」をツールとし、以下の活動を展開した。

①「布ぞうり」の販売を通じた自立支援活動として、実費を除いた売上金を製作者にお渡しし、経済的自立の一助となるようにした。

②「布ぞうり教室」の開催を通じて、作り手の拡充と楢葉町の町民や他地域の住民をつなぎ新たなコミュニティの創出を行った。

他団体と協同することで発見したこと

【情報共有の必要性】

東京を拠点に福島と連携して活動を継続するにあたっては、現地（会津）で日常被災者の作り手とコミュニケーションする活動団体（元気玉プロジェクト）との情報交換があってこそ。メールを中心にした密な連絡と定期的（2カ月に一回程度）な相対でのミーティングを通じて、「継続」を重視した。

【分担の整理の重要性】

「布ぞうり」の作成と作り手マネジメントは現地支援団体（元気玉プロジェクト）に、商品開発や販路拡大は当団体が、と分担することで、全体設計を現実に即して継続することができた。

成果と教訓

（成果）

・半年間で週末を中心に「布ぞうり」を約20回販売。「布ぞうり教室」を併設したこともあり、消費者と直に接することを通じて、作り手の主体的な商品改良にもつながった。

・各種イベントでの販売を通じて、複数の企業との商談が成立。また、福島県主催の「八重セレクション」の商品として認定され、福島県のアンテナショップやネットでの販売が決まった。

（教訓）

【スキームの“ビジネス化”は不可避】

「布ぞうり」づくりを通じた「生き甲斐作り」とともに、制作されたアイテムの「販路」を確保しないと「作って終わり」になってしまうため、持続可能性を重視する意味で「受け皿としての販路確保・拡大」は重点ポイントのひとつと認識した。また作り手側の想いだけでなく、消費者サイドのニーズを適切にマーケティングすることも必須と感じた。

将来イメージ

売上金を義援金としてお渡しするのではなく、物販開発の事業化による被災地の雇用創出を目指す。

パルシステム千葉

活動名：地域・産地・組合員・生協　みんなでつくる旭の“和”

協同した団体：旭市年金課、飯岡保健センター、農業組合法人佐原農産物供給センター、有限会社サンドファーム旭、農事組合法人和郷園、共生食品株式会社、NPO法人JFSA、株式会社パルライン、農業組合法人村悟空、株式会社パルミート、株式会社西原屋、日本太鼓TAKERU、ヨガの先生、姿勢の教室の先生

活動内容概要

「旭市仮設住宅にお住まいの方に楽しい1日をお過ごしいただくこと」を目的にフェアを開催。
開催日の1週間前に仮設住宅にお住まいの方にお声掛けしながら無料クーポン券を配布。当日は11時開場を待たずに野菜売り場、弁当売り場などに仮設住宅の方たちが集合くださり、定刻を10分早めての開会となった。仮設住宅にお住まいの方で来られない方には、お声を掛けながら弁当などを差し上げました。

当日は、約500名の来客があり、「ご協力いただいた産地・メーカーの模擬店」、「ふわふわ等のこどもコーナー」、「日本太鼓TAKERUの演奏や産地による野菜ゲーム」、「チーバくんとこんせんくんのPK対決」、「こんせんくんのじゃんけん大会」、「ヨガ、姿勢の教室」等で楽しい1日をお過ごしいただきました。

↑産地・メーカーブース。
来場者と和気藹々の雰囲気

↑ヨガ教室を体育館で開催

↑生産者による野菜ゲーム
老若男女盛り上がった

他団体と協同することで発見したこと

・他団体から仮設住宅の皆さんへの商品やサービスの提供、当日のブース売上金を旭市の災害寄付金に寄付いただくなど、イベント名称通りに「みんなでつくる旭の“和”」の実現ができました。それぞれの団体の個性を活かして、会の目的である「楽しい1日をお過ごしいただく」ことに近づいたと思います。
・多くの団体と協同で物事を実現する・・・まさに生協の理念が実現できた1日だったと感じました。

成果と教訓

（成果）
・参加者数は500人、当日の売上：144,273円、当生協から55,273円を計上し、20万円を旭市災害寄付金に寄付することができました。
・仮設住宅にお住まいの方に楽しんでいただけました。

（教訓）
・仮設住宅にお住まいの方は日がたつにつれて減少傾向にあると感じました。それは良いことなのかもしれませんが、一方でご事情もあって引越ができない方もいるのではと思います。その時ごとに必要な支援というのがあると思いました。

将来イメージ

その時ごとに必要な支援というのがあると感じ、次年度も同じようなお祭の開催は難しいと考えています。東日本大震災による復興支援は当生協として引き続き実施することが必要と考えています。

パルコープくらしのたすけあいの会大阪北支部

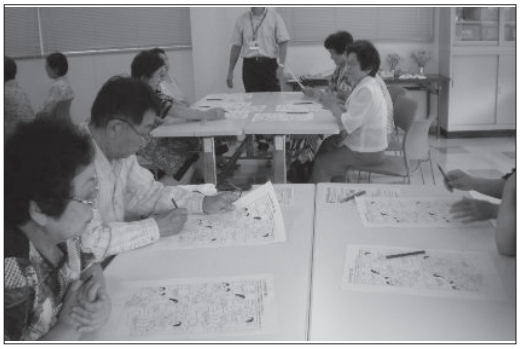
活動名：頭もからだも「ちょっと動かし、ちょっと使い」元気になろう

協同した団体：大淀東地域社会福祉協議会、大淀東地域ネットワーク委員会、
大淀東連合振興町会

活動内容概要

高齢者の方を対象に、大阪市北区保健福祉センターの協力を得て9月から12月にかけて毎週火曜日、全12回「脳活性化プログラム」と「いきいき百歳体操」を行い、認知症予防と健康維持に努めました。くらしのたすけあいの会も地域とつながりながら活動と交流を深めました。
※「脳活性化プログラム」：思い出パズル、思い出の歌、間違いさがしetc.

↑体操の様子



↑間違いさがしの様子

他団体と協同することで発見したこと

今回、初めて社協、大淀東連合復興町会と一緒になって活動を実施したのですが、地域に協同で開催する活動（活動名：頭もからだも「ちょっと動かし、ちょっと使い」元気になろう）の広報チラシを地域に配布したところ、予想以上に参加希望の申し込みがありました。地域と協同することで、高齢者世帯が想定よりも多く、ニーズがあることが再確認できた。
高齢者の方はひとりでは参加しにくい内容でも、数人集まることによって励ましあいながら参加するなど、参加意欲が高まっていました。

成果と教訓

（教訓）
他団体との協力体制でより広く地域を知ることができてこれからの活動に生かせること。

将来イメージ

独居高齢者もどんどん外出して地域でちょっとしたお役立ちをしながら、おたがいに声をかけ合って生活する。
住みなれた地域で最後まで元気に過ごせる体づくり。

住之江区キャラバンメイト連絡会

活動名：住之江区キャラバンネット

協同した団体：南大阪医療生活協同組合かがやHS

活動内容概要

地域で認知症高齢者が暮らしやすい町づくりを目指し、認知症サポーターの養成やキャラバンメイトのスキルアップ、認知症の非薬物療法の実践を行い広めていく。

↑デイサービス利用者へ行った
色彩セラピーの様子

↑認知症講座の様子

他団体と協同することで発見したこと

地域に根差した活動にしていくために、すでに地域の活力が育まれた団体と協同することで大きなマンパワーとなる。

成果と教訓

（成果）

活動しているメンバーが固定しやすいが、地域の団体と協同することで新たな活力がうまれること。

（教訓）

住之江区役所職員およそ220名を対象とした人権研修を2月～3月にかけておこなうことができて、地域住民の窓口となる行政職員に認知症の正しい理解を広められたこと。

将来イメージ

認知症について正しく理解したサポーターが地域に増えて、認知症になったら施設で暮らすことは仕方がないとうイメージを払拭し、住み慣れた地域で暮らせるような地域が生まれること。また、愛犬家が散歩時に高齢者・障害者・児童に関心を持ちながら歩くことで地域の安全に寄与する。

安心して住み続けられるまちづくりの会

活動名：高齢者に寄り添い、安心して住み続けられるまちづくりをすすめる活動

協同した団体：コープぎふ、岐阜健康友の会、みどり病院

活動内容概要

毎月2回実施する「虹の喫茶室」の活動を軸に、参加者である高齢者、障害者など社会的弱者に寄り添い、健康チェックや健康相談、生活相談、暮らしの相談などを行いました。地域で孤立してしまいそうな独居者・高齢者が、地域でのつながりを持てずに苦しむことや、相談できずに困ることが無いように、憲法9条や25条が暮らしの中で、活き活きと輝く、そんな「誰もが健康で安心して住み続けられるまちづくり」を目指して活動しました。

2012年最後の「虹の喫茶室」では、岐阜大学落語研究会の学生さんに来てもらい、「寄席」を実施するなどしました。

孤独死なくしたい

お年寄りが集う「虹の喫茶室」

岐阜市大洞緑山の施設

住民同士で見守り活動、定着

↑2012年9月14日付
岐阜新聞

他団体と協同することで発見したこと

それぞれの専門性を発揮して地域で協同して「コミュニティーづくり」に取り組んでいます。日常的に互いに刺激を与えたり受けたりで、何でも遠慮なく議論しながら運営しています。異質の団体が協同して運営を行うことは、「組織運営」一つをとっても発見の連続です。

成果と教訓

（成果）

2009年、2010年と相次いで発生した大洞地域での孤立死を発端に、毎月2回の「虹の喫茶室」運営が始まりました。この間、徐々に企画に参加する高齢者（殆んどが独居者）が増えてきており、2012年度は延べ591名（前年比101名）の方が参加しました。

参加者自身がスタッフとして「お手伝い」に加わって頂けるようになり、「ここ（虹の喫茶室）に通うようになるまでは、団地の一室で一歩も出ないでテレビが友達だった」「話し相手ができて嬉しい」などの声が寄せられています。

また、毎月1回の役員会の中で、喫茶室運営について議論おり、「○○さんは、この頃見かけないねえ」がきっかけで、参加されない方の自宅（団地の一室）を尋ねる等、高齢者の安否確認も行う活動に発展しました。

医療機関（精神科）より看護師を招いて、認知症の参加者に対する対応もスタッフ一同で学習したことで、その後の喫茶室運営に活かされています。

将来イメージ

参加者の中には、食生活が乱れている方が見受けられるため、健康面から「配食サービス」に取り組みたいと考えています。生協（コープぎふ）や地域の自治組織との連携を深めて、まずは毎月1回の食事会からスタートさせ、徐々に回数を増やしていく計画です。

ＮＰＯ法人　きずな

活動名：買い物弱者支援活動・食生活支援活動、復興支援募金活動

協同した団体：ボラ連、県社協、県ボランティアネットワーク、東部振興局、コープおおいた

活動内容概要

地域訪問で、特に独居老人を中心に生活に困っている内容の聞き取りを行った。また、食生活支援、買い物代行（御用聞き）を開始。さらに、地域の見守り活動、復興支援活動（募金活動・被災者交流活動）を行った。

過疎地域で食事宅配
NPOと生協提携

↑2013年２月22日付
大分合同新聞（朝刊）

他団体と協同することで発見したこと

ひとつの団体では不可能なこともいくつかの団体が協力することで活動が可能となる事例を多く発見できた。そのことでの繋がりができ、今後の活動の幅が広がる。

成果と教訓

（成果）

「復興支援朝市」、「大分へ避難してきた被災者たちとの交流会」等の交流会では、県社協・ボラ連・コープおおいた・地方銀行・数箇所の授産施設・地域方たち等が参加し、朝市には300名以上の参加、交流会には避難者を含め40名の参加があった。

（教訓）

・行政は縦割り社会でありスピードがない。地域で困っている方へ本気で手を差し延べようとしているのか、わからないときがある。
・市民活動センターボランティアネットワークの活動の幅は広く、対応にもスピードがある。
・買い物困難者へ訪問したところ毎日の食事にも困難があり、パンやインスタントラーメンが主食となっている実態がわかり、我々が想像していた以上に困っていることが把握できた。
・高齢者はとにかく話し相手がほしいということ。最初は顔なじみでないと話してくれないが食事を届けることで話かけてくれる方が多い。

将来イメージ

御用聞きをベースに買い物弱者支援をスタートし、7月を目途に移動店舗車両を購入し活動を始める。また、ボラ連の活動が活発な大分市郊外（佐賀関地区）及び由布院方面（由布市）でも食生活支援をスタートした（新聞報道を見て地域の方よりNPOきずなへ申し出あり）。10月以降、地域でサロンを開始予定。

福井県民生協　くらしの助け合いの会

活動名：他団体との連携　事例研究会

協同した団体：シルバー人材センター、さわやかボランティア　虹、ファミリーサポートクラブ

活動内容概要

お料理教室、お掃除講座、事例研究・情報交換会　など

↑お掃除講座の様子

↑福井市シルバー人材センターとの交流

他団体と協同することで発見したこと

同じ生活支援の活動をする団体同士、やはり悩みや問題点は同じだということを感じた。他団体で行われている、研修会や講習会など参考になるお話が聞けた。

成果と教訓

（教訓）

・自治体では受けられない依頼については、中途半端に引き受けず、お断りすることの大切さと、他団体(生活支援)などにつなぐことの必要性を感じた。

・研修会などでは、「良いこと」ばかりを取り上げるのではなく、「トラブル」「問題点」などについて会員さんに知らせ、同じことが起きないようにすることが大切だということを感じた。

（成果）

他団体と交流を持つようになってから、自組織で応えられないニーズについて、連携を取りながら応えられるようになった。お互いに情報を共有していくことを約束し、次年度も引き続き交流・連携を図っていきたいと思う。

将来イメージ

社協、または行政が中心となってボランティア組織をまとめて、全体で地域のお困りごとに対応できることが理想。

おかやまコープ

活動名：被災地支援活動

協同した団体：大学生被災地支援ネットワーク（事務局:NPO法人岡山NPOセンター）

活動内容概要

仮設住宅に暮らす被災者の方々の引きこもり、孤立死、心身の健康面の問題が深刻になっている中、岡山県内の大学生で組織する「大学生被災地支援ネットワーク」では、2012年8月6日から10日まで、宮城県志津川町の仮設住宅を訪問し、高齢者の方々の悲しみや悩みをお聞きして孤独な想いに寄り添う傾聴や、子どもたちとの交流などによる心のケア等を行う「被災地仮設住宅訪問プログラム※」を実施し、おかやまコープは事務局としての役割を持ち3名が参加、大学生との協同の取り組みをすすめた。

↑子どもたちと流しそうめん
笑顔が見られた企画になりました

※瓦礫撤去、茶話会、日曜大工、流しそうめん、大掃除、スポーツ交流会など

他団体と協同することで発見したこと

・学生を支援する形での震災支援は、学生の成長につながる学習の機会と提供になり、マスコミなどでの報道の効果もあり、岡山でのボランティア精神の醸成につながり、おかやまコープが行う社会的な役割を広く知っていただく機会となった。
・日頃は若い世代と接することが少ない組合員には、学生を交えての報告会を通して大学生の活動や想いに触れ、若い世代とともにすすめていく生協活動を考えるきっかけづくりとなったこと、一方、学生の側も主婦や社会人など幅広い層へ活動を伝えることで、自分たちの活動がより意義深いものになったという感想が寄せられている。

成果と教訓

（教訓）
・他団体、年齢や立場を超えてつながることのできる生協活動の可能性を組合員が実感できた。
・「支援とは何なのか、私もあの日からずっと考えてきました。地元（岡山）で、そして現地で、自分にできることにこれからもずっと関わり続けようと報告を聞いて改めて思いました。自分の命と周りの人に感謝しながら…」という、報告会に参加した組合員の感想に表れているように、現地での震災支援に間接的ではあるけれど、関われている充足感とともに「命」や「感謝」への想いにまでつながった。
・「皆さんと共有させていただいた時間により、これからの活動をがんばろうと思わせていただきました。皆さんに伝わったかどうかわかりませんが、私は参加できて良かったです」というコメントが報告した大学生からあり、大学生の達成感や励ましとなっている。

（成果）
・おかやまコープが行う社会的な役割を広く知っていただく機会となった。
・若い世代とともにすすめていく生協活動を考えるきっかけづくりとなった。
・今後の支援策について、地域ニーズに基づいての設計につながった。

将来イメージ

学生と、さまざまな企業や団体が協同することで、地域社会へボランタリー精神が根付き、醸成することをめざしたい。

東京ボランティアネットワーク

活動名：東日本大震災被災者支援活動

協同した団体：東京都生活協同組合連合会、コープとうきょう(みらい)、パルシステム東京、東都生活協同組合、生活クラブ生協、東京南部生協、日本生協連等、youth for 3.11、南三陸町社会福祉協議会、登米市社会福祉協議会

活動内容概要

被災地である宮城県南三陸町の被災者が入居している仮設住宅でのサロン活動。仮設住宅住民同士のコミュニティ醸成、また、仮設住宅住民とボランティア（被災地と被災地外）の交流として実施しました。

↑喫茶横山

↑喫茶幼稚園

他団体と協同することで発見したこと

他団体と協同（協働）することで、被災地の現状や被災者の抱える思いを個人の記憶・経験に留めるのではなく、団体の記憶・経験として共有することができました。多くの団体が協同で活動することにより、被災者への「応援している方が被災地外にたくさんいる」というメッセージにつながりました。
また、協同（協働）することで、自団体だけでは難しいプログラム（サロンでの軽食提供）等が可能となりました。

成果と教訓

（教訓）

東日本大震災は、大きな被害となりました。私たちは2011年4月から被災者支援活動を継続してきましたが、長期にわたる仮設住宅での生活、ふるさとを離れての避難生活、十分ではない高台移転への展望等、まだまだ被災者の現状は厳しいものがあります。2年にわたって支援活動を続け、これまでの取り組みについては近隣市の団体に引き継ぎましたが、今後も支援活動を継続する必要を感じています。そのためには財源確保が必須ですが、月日が経つにつれ、それは難しくなっていきます。
今回は、東京都生協連からのご提案により、本助成をいただくことができましたが、より多くの団体と連携する事で、活動を充実させていくことはもとより、その基盤となる財源の確保できることが教訓となりました。

（成果）

本事業では、東京から88人のボランティアを7ヶ所の仮設住宅に派遣をすることができました。対象となっている仮設住宅では、約1,000人の被災者の方々が現在も避難生活を余儀なくされています。毎月10人程のボランティアが仮設住宅でのサロン活動（ふれあい喫茶活動）を実施してきました。一昨年の夏（2011年7月）から継続して活動してきたことから、仮設住宅の住民の方々にとって安心して参加できるサロン（喫茶）として評価いただくことができました。
また、参加したボランティアが自団体に戻り、活動を報告することで、ボランティア個人の経験・気づきが、団体の経験・気づきとなり、自団体での取り組みに波及することとなった点は望外のことではありますが、評価できることではないかと思います。
さらに、多くのボランティア（団体）が参加することで、被災地近隣市である登米市の住民が刺激され、共に活動することとなりました。結果的に、私たちの活動を近隣市民の方々が引き継いでいただける

将来イメージ

今後も被災地での被災者支援活動は続けていきたいと考えております。仮設住宅自治会や地域団体主催の取り組み等に協力する形での交流事業を検討しています。

鳥取県生協

活動名：まちなかくらし助け合い活動

協同した団体：ＮＰＯ法人地域福祉ネット(まちなかサービス)

活動内容概要

NPO法人地域福祉ネット、鳥取県生協の協同事業として、夕食弁当宅配とまちなかサービスのコラボ、地域のミニココステーションと高齢者見守り・暮らし支援を組み合わせて行いました。

↑まちなかステーション開所式
（米子市）

他団体と協同することで発見したこと

困っている方が本当に多い。その様な感じに見えないのは隠れているだけだということと手助けを求めている方と同時に、誰かの手助けをしたいと思っている方がたくさんおられるということです。それらが無かったのではなく、私たちには発見できなくて埋もれていただけということ、行政だけでは解決しない問題が多数あること、生協の認知度がまだまだ低いことも分かりました。

成果と教訓

（教訓）

街中地域で生活しておられる方のくらしの困りごとの解決策（社会資源）の1つとして緊急時また、災害時にも大きな役割を発揮します。

市街地の過疎化、買い物の不便さを解決する手立てが見出せない中、地域で地道に活動する団体と協力しあうことで、解決の糸口が見つかるということ。

（成果）

まちなかステーション開所式には行政からの来賓やマスコミが注目し、地元すべてのテレビ局の取材、地元新聞の報道があったほか、継続した取材や行政・関係団体からの問い合わせ、情報の問い合わせがあります。開所式には関係者、地元住民など60名程度の参加。

まちなかステーションには、近隣住民や通行中の人が立ち寄ることもしばしばあります。

NHKでは中国版でテレビ放映されました。

商品荷受・注文書提出2月５日（開所後初）１人→3月26日（今年度末）7人

夕食宅配利用１１人(弁当個数14個)→16人（弁当個数21個）となっています。

将来イメージ

今回、米子市中心部での実験展開でスタートしましたが、マスコミなどの注目度が大変高く、私たち自身も驚いていますし、あらためて米子市の市街地の抱える問題点が浮き彫りとなりました。この活動を継続・発展させ、県内全域にネットワークをはりめぐらせ、ひとつのモデルケースとして、様々な広がりを目指します。また、この取り組みの中で、くらしにお役立ちできる仕組みの実験や、地域のネットワーク作りの研究もあわせて行い、他の地域でも活動が広がる取り組みを目指します。

松江保健生協

活動名：地域ケア連携フォーラム実行委員会

協同した団体：島根県農業協同組合中央会、くにびき農業協同組合、社会福祉法人松江市社会福祉協議会、松江市地区社会福祉協議会会長会、松江保健生活協同組合、生活協同組合しまね

活動内容概要

“誰もが安心して暮らせる街づくり”をめざした地域連携ケア・フォーラムの開催実行委員会。

↑地域連携フォーラム

↑のんびり村

↑上映会

他団体と協同することで発見したこと

地域の現状からすると各団体による連携した活動、事業の必要性は、あたかも自明のことのように思われ、これを否定する人や団体は、ほとんどないにもかかわらず、なかなかコトが進まないといったことが往々にしてある。昨年度の第1回フォーラムの開催後、次のステップをどう創るのかを検討する際の論議は、そういった内容であった。そうしたなかで、それぞれの団体の考え方、事情等々をひとまずおいて、まず同じものを見る、聞く、そのうえで同じこと、テーマについて考えてみる。そのためにカタチづくりだけを急がず、継続して一同に会する機会を創ることを何より大切にする活動とすること。

成果と教訓

（教訓）

実行委員それぞれが組織からの代表者として参加するだけでなく、一個人、一市民として暮らしを見る、地域の状況と向き合う機会を持つことは、人的なつながりを強めていくうえでも非常に重要で、「会議」「学習会」を重ねるだけでは生まれにくい、小さなこと、小さなテーマでも一緒に創るための作業を積み重ねていくことが、とても大切だった。

（成果）

ほぼ1年を通しての活動のなかで、それまで、それぞれの団体の従来の活動、事業からの視点でのみ、地域や連携課題を捉えがちであったものから「くらし」「医療」「介護」を総合的に捉えることに視点が揃いつつある。さらに具体的な活動、事業のカタチのイメージを一緒に描いていきたい。

将来イメージ

次年度は、6団体の共通した「非営利・協同」の組織的な特性を踏まえた新たな地域連携、機能の創造のため「実行委員会」からのステップ・アップを図りたい。具体的には、参加団体は、「医療・介護」、「地域活動」などで、すでに一定の実績、ポテンシャルを備えており、将来的には「生活支援」機能との連携が大きな課題の一つである。その辺について実践例などを学びながら具体像を探り、実現化していきたい。

いばらきコープ

活動名：牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援

協同した団体：牛久市、牛久市社会福祉協議会、牛久市地域包括支援センター

活動内容概要

・移動店舗による買物支援活動：生鮮食料品のほか調味料・一般食料品・雑貨等を販売。車両は、1．5t改造トラック。取り扱い品目約400品目。
・牛久市買物支援・支えあいのまちづくり推進協議会を結成して、市・社会福祉協議会・地域包括支援センター・地域の諸団体と連携した事業推進を図った。
・地域円卓会議：行政も含めて地域の諸団体の皆さんに出席していただいて、活動事例の共有化、今後の活動方針論議を行なった。
・経験事例研究会：停留所づくりに関わってこられた行政区区長や諸団体の皆さんより活動事例報告をしていただき、情報交換・意見交換を行なった。

↑移動店舗ふれあい便
うしろが入口、横が出口です

・健康教室・健康相談：販売停留所に来られる地域住民の方々を中心に広く地域に呼び掛けて、高齢者に関心が高いテーマでの学習、試食交流を行なった。

他団体と協同することで発見したこと

・連携・協同により生み出される大きな力・・・コープ単独での取組みでは大変だった停留所づくりが、スムーズに進んだこと（停留場所の確保、安定的な利用客の確保）。
・利用客のニーズ・要望を直接聴ける場ができたこと。
・行政のバックアップにより、地域住民の皆さんの理解・協力が得やすくなること。
・利用客の声を直接聴くことの出来る場づくりが重要であること。また、その際、1対1のやりとりだけでなく、共通した問題意識を持った方々が複数集って意見交換する場づくりが必要であること。相互の情報交換・意見交換によって、地域の問題解決、モチベーションアップに繋がっていること。
・職業人をリタイアした世代の方々のパワーが絶大であること。（ボランティア活動への積極参加、多方面にわたる知見・経験に優れている、蓄積してきた自分自身の力を発揮できる場を求めている。）

成果と教訓

（教訓）
・連携・協同による取組みの継続、地域住民の方々や地域諸団体の方々と関係づくりを強めることが重要であること。
・今後の活動をさらに質量共に高めていくためには、地域での担い手作りが重要ポイントになること。とりわけ“団塊世代”も含めた高齢世代の担い手づくりが必須となっていること。

（成果）
2012年5月に開業し2013年3月末の到達状況は以下の通り。
・供給動向・・・30停留所で週約200名が利用。一人当たり平均利用高は約千円。1週間の供給高は約20万円（当面、週5曜日の営業で50万円の供給を目指している）。
・牛久市内全行政区61あるうち、18行政区で停留所設置。
・各行政区の区長さんや牛久市健康管理課・茨城県保険医協会と連携でき、牛久市のバックアップも受けることができた。

将来イメージ

・高齢者世帯・独居世帯が増加する中で、移動店舗による買物支援が実現される他、停留所を拠点としたコミュニティづくりが広がっていく。
・さらに、地域商工業者・医療機関との連携を深めることで、生活支援の活動へとその領域を拡げていく。これらの活動を通じて、地域の絆が強まり安心して暮らせるまちを実現する。
・将来的には、月曜～土曜の週6曜日稼動、2台目の増車も視野に入れた事業展開を目指す。

小幡寺子屋実行委員会「見守り促進隊」

活動名：対話・相談とつながる「見守り会員・解決支援組織のネットワーク」づくり

協同した団体：いきいきワーカーズ小幡、生活支援ネットちくさ、コープくらしたすけあいの会(守山)、「コープネットいちご」(コープあいち小幡店)

活動内容概要

ちょっとした困りごとや制度の谷間にある困りごと、複合的な困りごとを解決につなげるために、①ご近所でお互いに関心を持ちあう「見守り会員」の登録を地域に広げる、②ちょっとした困りごと解決の「生活支援活動」とのネットワークを広げることを目標に取り組んだ。

①は、見守り促進隊守山を発足し、重点中学校区を定め、守山地域に会員登録を呼びかけた。案内チラシ・登録用紙や福祉みまもりマップにて広報し、会員の登録81名（2013年3月15日現在）となり、会員の学習会も持った。

↑福祉みまもり会員マップ

②は、コープ小幡店を舞台に、組合員グループや民生委員グループ、守山区社会福祉協議会や北医療生協守山運営委員会、守山区西部いきいき支援センター、コープあいち福祉事業部の皆さんなどと一緒になって懇談する場を2回持ち、これからのすすめ方を描いた。

他団体と協同することで発見したこと

① 「孤立しかねない人や外出困難な方への見守りの地域の緊要の課題」「住民がおたがいに関心を持ちあっていく地域づくりがあらためて問われていること」「困りごと相談の場と生活支援組織のネットワークが求められていること」などの地域の課題を多面的角度から見る（深める）事ができる。

② 地域の様々な活動、事業組織が「一緒のテーブルについて（顔の見える関係で）」地域のことを話すことにより、様々な発想・解決力が生まれ、かつ迅速な問題解決がつくられる。自分の組織だけでは解決できないことも、連携すればできることが見えてくる。

成果と教訓

（教訓）

・地域の中には、なにかしたい、してもよいと考えている人がいっぱいいること。
　様々な思い・力を持った人がいっぱいいること。

・一つひとつつないでいくことが、さらなる新たな力、つながりを広げていくこと、つなぎあうコーディネーターを発掘するのが要の課題であること。

・様々な側面から一つの課題を把握することで、組織の枠を超えた解決が実現するが、個人情報の取り扱いも含め情報をどう伝え合うかが課題であること。

（成果）

・見守りそくしん隊守山の会員は、守山区西部方面の4つの中学校区に81名の登録があり、活動が始まった。会員登録の半数近い方が具体的に「こんなことならお手伝いできる」登録があり、今後の生活支援とのつなぎが具体的に見えてきた。

・福祉みまもりマップ守山西部版を発行することができ、住民6,000件以上の家庭にお配りすることができ、まずはお知らせすることができ、今後の活動の基礎をつくった。

・見守り隊の発足やネットワーク会議を通じて地域の活動組織、コープあいちや社会福祉協議会などからの期待と連携をつくることができた。

将来イメージ

・見守り会員；守山区東部の各中学校区にも週十名の会員登録、200名会員活動開始
・会と財政；各地域で会員学習会、マップ゜第2弾の発行、協賛組織の組み立て
・見守りの場づくり；地域の資源のつなぎ役からの役割で新たな場づくり支援
・ネットワーク；事業組織と住民グループとで地域のくらしを語る場

みやぎ県南医療生協

活動名：被災者への健康づくりや相談とふれあい活動

協同した団体：NPOふれあいの四季、尼崎医療生協

活動内容概要

地元NPO団体と山元町の仮設住宅集会所（8か所）を月2回巡回し、コーヒーやお茶を飲みながら、健康チェックや健康相談、健康体操（脳いきいきトレーニング）などを開催した。開催にあたっては、近畿地方の医療生協に、専門職（看護師、介護福祉士）の派遣（月1回）をお願いした。もう1回は、県南医療生協のボランティアスタッフで取り組んできた。

会場にはコーヒーコーナーと健康チェックコーナーを設け、最初の1時間、参加された被災者と懇談（茶話会）や健康チェック（健康相談、傾聴）をした。その後に、健康体操、脳いきいきトレーニング、歌、ゲームなどをおこなった。

↑健康チェックの様子

↑歌の様子

他団体と協同することで発見したこと

NPOふれあいの四季は、震災前から高齢者の送迎ボランティアなどをしている団体で、震災後も山元町の高齢者福祉についてさまざまな意見を持ち活動をしている。医療生協として、NPOふれあいの四季と一緒に活動をすることで、山元町の現状、復興計画、被災者の思いなどを具体的に知ることができ、仮設住宅でくらす被災者の思いを共有することができた。

成果と教訓

（教訓）

山元町での支援活動は、地元NPOふれあい四季や近畿ブロックの医療生協とともに仮設住宅でのふれあい喫茶だけでなく、在宅被災者への支援活動を同時に継続してきた。継続することで、被災者との信頼関係を築くことができた。個々の被災者の思いに寄り添いながら、関係団体と共に、どんな支援が必要なのかを協同の力で進める重要性を再確認した。

（成果）

2012年度は、定期的に山元町仮設住宅集会所でのふれあい活動を通して、家族や家を失った悲しみや狭い仮設住宅での不自由な暮らし、引きこもりがちな生活から、健康不安やストレスを抱え過ごしている被災者の思いに共感し、継続することで信頼関係も生まれてきた。

特に、健康チェックでは、被災者のさまざまな話を傾聴し、被災者の思いを共有できた。健康体操（脳いきいきトレーニング）では、みんなで一緒に体や頭を使い楽しい時間を共有でき、被災者に喜ばれた（1回の参加者15～20名×12回開催、のべ200名参加）。

将来イメージ

仮設での暮らしも3年目になり、将来への不安、生活や健康不安が大きくなっていると思われる。仮設住宅から自宅を再建し帰っていく人、災害復興住宅へ移り住む人、さまざまな理由で仮設住宅での生活を余儀なくされる人、被災者の中の格差も広がっている。2013年度も継続することで、被災者の苦難を少しでも和らげ、思いを共有し、被災者の健康の保持、生活向上に努めていきたい。精神面でのケアもますます重要になってくるので、医療生協の専門性やネットワークを活かし、相談活動を行ったり、さまざまな問題解決には、必要な関係機関への連絡、調整などもおこないたい。

セカンドリーグ埼玉

活動名：アレルギーで悩んでいる人を支援するサポーター育成

協同した団体：特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク、特定非営利活動法人モクイエ、協同組合JASMEQ（品質安全共同推進センター）、特定非営利活動法人日本就労支援センター合同会社ままの＊えん

活動内容概要

アレルギー問題に取り組む事業者、団体、個人を対象にした学習会を開催。
初年度はアレルギーの諸問題に対する市民活動の担い手を育成し、さらにステップアップとして、相談活動を行える人材を育成をめざします。

↑学習会の様子

他団体と協同することで発見したこと

1. 講座の内容を多角的に見ることができました。
2. 受講者募集においては、協同した団体の呼びかけや生協職員まで行き渡り、生協組合員以外の受講者と他団体の交流もできました。
3. 他団体の得意分野の視点から、アレルギー諸課題を抽出することができました。

成果と教訓

（教訓）

1. 暮らしにおける課題の解決を検討する場合、様々な団体と連携し、多角的な視野を持つことが重要であると感じます。
2. アレルギーの直接的な課題を持つ方とそうでない方の意見交換もでき、アレルギー疾患を持っている方の苦労が共有できました。

（成果）

関係する各団体の呼びかけにより、生協組合員以外との関係が強化されました。
学習会の延べ参加人数76名
他団体からの支援人数（講師5名：団体からの作業者4名）
生協関係者支援人数（事務局支援2名）
生協の託児施設を使用させていただき、託児を行なう団体との連携により、講座の際に安全に受講者のお子さんの託児を行なうことができました。
託児延べ人数21名　託児スタッフ延べ人数15名

将来イメージ

1. この養成講座受講者を中心に、アレルギーについてのサポーター、コアな理解者を養成することで、今後地域にアレルギー疾患をお持ちの方への支援の輪が広がります。
2. アレルギーの課題についてテキストができたことにより、地域の中での学習会が開きやすくなり、共通理解者やサポーターが増えます。
3. アレルギーについては対象や裾野が広く行政も縦割りの中、埼玉で横軸をつなぎ地域で課題解決のためコーディネートできる人が生まれます。

高知医療生協

活動名：全県一斉「くらしといのち相談会」の実施

協同した団体：法テラス高知、高知県司法書士会、高知県行政書士会、
コスモス成年後見サポートセンター高知支部、クレジットサラ金被害者の会「高知うろこの会」

活動内容概要

2012年11月10日～1月20日にかけて、高知県下17会場で「くらしといのちになんでも相談会」開催
高知医療生協の機関紙「生活と医療」10月号に開催案内、13万枚の開催案内チラシを作成し、地元高知新聞へ11月10日～12月13日にかけて地域別に折り込みを行い、土佐清水市では市内全戸配布の市広報紙8000部の折り込みを実施。
その他、ラジオCM高知放送TVスポットCMの行い、高知県主催の「消費者啓発講演会資料」への折り込みも実施。
高知医療生協の各支部では公民館へのチラシ掲示や独自チラシの作成、案内宣伝カーの運行の実施も行った。
開催した17会場では、医療生協の組合員および職員とともに、協力団体から相談員などで参加をいただき、全県で当日の電話相談を含み75名の方の様々な相談に応じた。その場での解決にならなかった事例でも、相談会終了後もサポートを行い後日解決となった事例もあり、相談者から感謝していただくことができた。

他団体と協同することで発見したこと

今までにない多くの団体からの共催もしくは相談員派遣の協力をいただくことができ、「貧困と格差」が深刻化する中で、生協の取り組んでいる姿に共感し理解を深めていただくとともに、生協自体が地域の困難に対して他団体と日常的に交流し、協同していくことの重要性を学び取ることができた。

成果と教訓

（成果）
①助成金をいただくことで、従来を大きく上回る広報活動に取り組むことによって県民への周知が一定可能となり相談件数の増加につなげることができたことは大きな成果。
②さらに多くの団体との協同の取り組みによって相談者への困難解決に役立つとともに、今後の団体間協力を進めていく土台を築くことができた。

将来イメージ

今回、一自治体の市広報折込による協力も得られたことから、次年度はさらに多くの団体との協力に加えて自治体との協同も進めさらに多くの困難に対しての生協としての役割を果たしていきたい。

【テーマ2】

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

エフコープ

活動名：バリアフリーイベント「みんなでふくし」

協同した団体：視覚障害者友情の会、福岡市ボランティア連絡協議会

活動内容概要

地域の中で、しょうがいを持った方とそうでない方が共に楽しむイベントが少ないため、今回、エフコープで声のカタログ作りを依頼している団体からの発案で企画しました。
イベントの中では、映画上映や講演会や試食会、エフコープでの福祉の取り組みや共済の取り組みを知っていただくブースも出展しました。

他団体と協同することで発見したこと

今回のような福祉のイベントは初めての企画でした。当然十分なノウハウや福祉に携わる方々との関係性も広く持っているわけではありませんでした。
しかしながら、日常的に福祉活動に携わっておられる視覚障害者友情の会や、福岡市ボランティア連絡協議会のお力を借りることで、今回の企画が成功できたと痛感しています。
また、こういった協同を進めることの中から、エフコープの活動を広く知っていただけることにもなるし、そのことで、新しいつながりや取り組みが生まれてくることも実感しました。

成果と教訓

（教訓）
映画上映の際にバザー等の他会場に誰もいなくなるという状況が発生。イベントのスケジュールに改善の余地があります。また、複数階でイベントを実施しましたが、回るのに大変だという事でしたので、次回は出来るだけ同じフロアーでの開催としたいです。
（成果）
地域における福祉の取り組みとしてエフコープが大きく関われたことは、大変意義があったと考えます。来場される方は、当初計画には遠く及びませんでしたが、主催者発表では350名ほどの参加と考えております。
参加された方からは大変喜んでいただけた声もいただいており、スタッフも色々な方々との交流が広がったようです。
他団体との福祉イベントは初めての企画でしたので、スムーズにいかない部分もありましたが、まずは記念すべき一歩が無事に踏み出せたことを大変うれしく思います。

将来イメージ

次年度以降もこの企画は継続していく計画で、共催団体には社会福祉協議会なども加わっていただき、行政とのタイアップ等も視野に入れて、さらに充実したイベントに組み上げていきたいと考えています。

あいコープみやぎ

活動名：お茶っこスペース「よってがいん」

協同した団体：NPO法人　井戸端介護

活動内容概要

石巻市渡波地区は、津波でほとんどの家屋が全壊しました。被災された高齢者や障がいを持つ方など、どなたでもこの地域で寄り合えるサロンを作ります。サロンでは、集う人々が自分たちで昼食を作り、お出かけ、映画鑑賞、看板作り、健康体操、ケーキ飾りなどを通じて、心身ともにリラックスし皆が笑顔でいられる居場所を作ります。被災地において復興まで長い時間が必要です。

活動は、毎週2日（月・金）9時から15時まで行いました。

他団体と協同することで発見したこと

5年10年以上かかると思われる被災地復興までの長い道のりを、自組織だけでなく他団体と組むことで「よってがいん」の活動を継続的に行うことができました。
人のつながりも地域に根ざしつつ、活動支援の輪は全国に拡がりました。チームワークと各々の役割について、スタッフや利用者の声を聞くとともに考えながら進めることの大切さを学びました。

成果と教訓

（教訓）

地域サロン「よってがいん」は、利用者にとってかけがえのない生活の場となっています。被災地である石巻渡波地区において、どなたでも気軽に訪れることができる居場所になることが被災地のコミュニティー再生や構築につながると思いました。地域の人々にお声かけをする上でも、週2回のお茶っこのみだけでなく、映画鑑賞、看板作り、お餅つきなどのイベントは交流も広がり有用であることを経験しました。

（成果）

＊地域サロン活動は定期開催により利用者交流も深くなり地域に定着しつつあります。あいコープみやぎ組合員による昼食作り支援は、スタッフや利用者に聞きながら活動を進めることができました。毎回の昼食作りをはじめ、Xマス飾りやケーキ飾りなども行い、季節感を味わうことができました。
＊健康体操では、健康体操で心身ともにリラックスすることができ、定義山・秋保お出かけ支援は、利用者と話合いながら決めた場所で、充実感と思い出を共有し仲間作りにも繋がりました。
＊その他、鑑賞会で新たな出会いに繋がり、「よってがいん」の看板作りでは、石巻以外の地でも支援したい人が参加でき、活動の広がりを作ることができました

将来イメージ

継続した活動としていくためにNPO化、介護事業化を目指しています。今まで以上に積極的に地域の人々へ活動のお知らせと参加を呼びかけ、より地域に根ざした活動に取り組みます。また、他団体の地域サロンや事業所などでのスタッフ研修も行います。
お年寄りや障がいを持つ人だけでなく、誰もが安心して暮らせるような居場所にしたいと思っています。

反貧困、暮らしと雇用、営業をまもる長野地域ネットワーク

活動名：居場所を拠点にした生活困窮者の自立支援活動

協同した団体：長野県労働組合連合会、長野生活と健康を守る会、長野県教職員組合

活動内容概要

・生活困窮者を対象とした月1回の相談会。
・日常的な生活困窮者の居場所（里庵みんなの家）の運営。
・月2回の無料学習支援（きずな塾）の運営。
・お話相手ボランティア養成講座の開催。
・越冬企画としての年末年始年越しきずなの事務局運営。

他団体と協同することで発見したこと

生活困窮者の相談では、各団体の特徴を活かし、内容に対応した支援活動をしている。具体的には、法律相談は弁護士、労働問題は労働組合、健康問題では医療機関が対応するなど。当事者が抱える問題は複合的であるため、さまざまな角度からの支援活動が求められる。結集する各団体の特徴を活かした具体的な支援活動が、当方の強みであると自覚した。

成果と教訓

（教訓）

日常的な生活困窮者の居場所（里庵みんなの家）の運営では、当事者が孤立せずに安心して居られる居場所づくりを、当事者自身の力を借りて開始することができた。支援を受ける立場だけでなく、支援活動の一端を担う立場になってもらうことで、当事者それぞれの人間性が引き出された。どんな支援活動が求められているのか、より具体的に考えることができた。無料学習支援（きずな塾）の運営では、子どもたちの現状から、彼らを受けとめる居場所が必要だと分かり、居場所としての役割の重要性を自覚し、実践した。

（成果）

何でも相談会5回（相談21件、同時開催の交流会当事者45名）
きずな塾12回（子どもの参加107名、サポーター参加185名）
里庵みんなの家交流会65回（当事者292名、ボランティア109名）
お話相手ボランティア講座4回（受講生50名）
第2回信州・年越しきずな村（全体参加者150名、相談3件、物資配布110名、緊急宿泊13名）※人数、回数はいずれも延べ数。

将来イメージ

生活困窮者の自立支援を当事者、ボランティアの協同で行う。
お話相手、見守りの役割を担う多くの支援者を募り、体制を厚くしていきたい。
緊急宿泊、シェルター事業を行っていきたい。

東京西部保健生協

活動名：孤独死・孤立死のないまちづくり　たまり場「大原さんち」開始と運営

協同した団体：東京都生活協同組合連合会、福祉のまちづくり・杉並、杉並区社会福祉協議会

活動内容概要

1. 昨年1月より高知県本山町出身の作家・故大原富枝氏の旧宅を町の協力を得て、借り受け、たまり場として活用を始めた。
2. 2012年4月、4つの購買生協とともに大原さんちの「ワイワイ見学会」を開催した。地域の住民を含め、150人の参加があった。
3. 杉並区社会福祉協議会の「いきいきサロン」を昨年8月より毎週開催している。
4. どんぐり育て隊の学習会と播種を「大原さんち」で行い、どんぐりを育てている。シイ、カシのどんぐりを植え、防火林づくりにこれからとりくむ。

杉並区の長寿ポイントを得て、男性高齢者の参加者を組織し、孤立を予防活動に役立てたい。

他団体と協同することで発見したこと

東京都生協連が提起する、医療生協と購買生協の協同をめざした「福祉のまちづくり」活動の実践の場として杉並ではさまざまな協同が始まっている。見守り活動は購買生協で熱心に取り組まれている。協同することで地域からの信頼が高まること、職員に誇りが生まれることが分かった。

高齢男性を地域に引っ張り出すとりくみはどの組織も成功していないことが分かった。

成果と教訓

（教訓）

ひとりぼっち、孤立を予防するためには、自発的な参加を引き出すとりくみを提起できるかが重要である。

例えば体操、運動、樹木の世話など自発的なやりたくなるような、ニーズに合う取り組みが求められている。どんぐりを育て、防火林づくりにとりくむなどの社会貢献は男性高齢者の前向きな姿勢を引き出すとりくみになる。

（成果）

「きずなサロン・ひまわり」は8月以来毎週開催し、定着してきた。

建物の持ち主の高知県本山町との交流がはじまり「大原さんち」にコーナーを設け、本山町の物産品の販売なども行っている。

また、メンバーで本山町を訪問し、活動報告・交流を行った。

将来イメージ

高齢者、子育て中の母親などのたまり場を各支部（6支部）に1か所は設けたい。

首都直下型地震での火災は杉並区、中野区の木造密集地域で最大の被害が予測されている。高齢者の被害を減らし、防火林づくりを進める活動の拠点としてたまり場を活用する。

倒壊による被害を減らす手立てとしてブロック塀の生垣への移行が進められている。「大原さんち」を生垣とし、ブロック塀から生垣に作り変える「見本」としたい。

支援者のための支援センターTOMONY

活動名：東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動

協同した団体：みやぎ生活協同組合、JPCom、地域社会デザイン・ラボ、ほっとスペース、ウェザーハート、NPO法人 FOR YOU にこにこの家、NPO法人 石巻復興支援ネットワーク、仙台YWCA

活動内容概要

①「支援者のための支援」の周知啓発活動（随時）
・ホームページによる情報発信
・県内のこころのケアに取り組む団体との情報共有
・メディア媒体への情報提供
② 支援者のための支援の場の提供
・支援者のためのリフレッシュプログラム「弘前りんご狩りバスツアー」の開催
・「支援者のための『TOMONYサロン』」の開催
③ 支援者のこころのケア研修の開催
・スーパーバイザー養成講座の開催
・フィンランドメンタルヘルス協会によるワークショップの開催

他団体と協同することで発見したこと

東日本大震災により被災しながら支援活動にあたる支援者、生活への直接的な被害はなくとも地道に支援活動を続けてこられた地元支援者、県外から駆けつけて住み込みで活動している支援者。今、宮城にはさまざまな立場の支援者がいるが、それぞれにストレスや疲労を実感しており、具体的な「支援者への支援」を求めていることが、さまざまな立場で支援活動を行っている団体との協働および情報共有の中で明らかになった。また、各々のネットワークを駆使して「支援者への支援」に関する情報発信や、具体的な支援の提供に結び付けることができた。

成果と教訓

（教訓）
・震災後、皆が大変な中で「自分たちにもケアが必要だ」と自ら声をあげることは、一人ひとりの支援者にとっては難しいことであったが、同じような想いをもった支援者が集まり声をあげたことで、一人ひとりも声をあげやすくなった。
・一口に支援者への支援といっても、行政、NPO、企業、社会福祉協議会など、支援者のセクターごと立場ごとに効果的な内容や周知方法は異なるため、それぞれに、効果的なアプローチを考える必要がある。
・支援者への支援は、「災害時」という特別に大変な時だけに必要なものではない、ということ。現在のTOMONYの取り組みについても必要である旨多くの声をいただいているが、平時から、支援者（対人援助職）をエンパワメントする機会や仕組みが必要。

（成果）
①2012年度は活動のスタートの年となりました。東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる団体が集まり、「支援者の支援が必要！」という思いで活動をスタートできたことは大きな成果となった。
②TOMONYの活動は、支援者の支援、支援者へのケアが必要ということを様々な機会で話すきっかけになり、啓発する機会となった。
③仙台市からの声がけにより、フィンランドメンタルヘルス協会とのつながりが出来たことは、支援者の支援をテーマに活動していく上で大きな成果であった。

将来イメージ

今年度も引き続き、関係機関・団体と協働で支援者への支援の具体的な取り組みや、周知啓発に取り組んでいく。
また、支援者のエンパワメントがより高まるように、支援者どうしのつながりづくりを意識した交流会企画や、セルフケアのノウハウ（マッサージやアロマなど）を身につけることのできる企画も検討中。

生協ひろしま

活動名：地域活動の拠点整備：地域ふれあいセンター「寄ってこ～家」の運用

協同した団体：福山市社会福祉協議会、福山市引野地域の「地域福祉を高める会」

活動内容概要

2011年度に完成した「地域ふれあいセンター寄ってこ～家」を、地域の活動（高齢者や子どもたちの交流など）の拠点として場を開放。地域ふれあいセンターには、見守り役のサポーター（ボランティア）を配置し、地域の諸団体（地域を高める会、子ども会など）、福山市社会福祉協議会と連携して活動する。

ここを拠点として、地域福祉の担い手の育成を目的とした研修会、セミナーを開催する。

↑地域ふれあいセンター寄って～家（引野）でのコミュニケーション麻雀

他団体と協同することで発見したこと

①社会福祉協議会では、地域ボランティアの育成に予想以上に力を入れていること。
②ボランティアの募集方法、育成方法、スキルアップ手法などをお教えいただいた。
③社会福祉協議会職員の皆さんとボランティアが長年の連携により、信頼関係が築かれていること。
④社会福祉協議会の職員の皆さんの献身的な対応。

成果と教訓

（教訓）

①「地域への貢献」は日常的なコミュニケーションを大切にし、顔の見える関係にあることが大切である。
②「いつでもだれでも気軽に集える開放されたスペース（場つくり）」が目的で運営を開始したが、すぐ　には利用していただけなかった。町内会長さんなどの地域のリーダーの方への説明や、近所にお　住いの方へもっとお知らせをする必要があった。
③サポーターさんとの会議で出された意見であるが、町内会の回覧板、掲示板や地元のスーパーマー　ケット、公民館など、地域の方が集まる場にチラシ等の広報物を配置したり、配布したらいい、という　意見をいただいた。組織を超えて地域へお知らせをすることが必要で、そのためにツールが必要。

（成果）

①開設に向けての準備、他団体との調整は、展開するうえでたいへん参考になった。また、今後 の展開の準備として、お知らせツール等を準備できた。
②地域の高齢者の方、障がいをお持ちの方のコミュニケーションの場となった。
③地域福祉の担い手育成セミナーは、67名の参加があり、担い手づくりに貢献できた。
④福山市社会福祉協議会の担当の方と、定例（毎月）の運営会議を通じて、一緒に取り組むことで一体感が生まれ、「見守り活動」等の他の取り組みも含め、今後の取り組みで、より連携した取り組みが展開できる。

将来イメージ

①「地域ふれあいセンター寄ってこ～家」を広島県全域に広げる（2番目のセンターは広島市に2013年度上期に開所予定）。
②現状の開放日は週1～2日だが、見守りサポーター（ボランティア）募集を強化し、開放日を1日でも多くして、早いうちに毎日開放できるようにする。
③子どもたちが学校帰りに立ち寄れて、お年寄りから勉強を教わる、といった場面が日常的に見られるようになればよい。

福祉クラブ生協

活動名：成年後見事業

協同した団体：司法書士法人大橋恵子＆パートナーズ、コスモス成年後見サポートセンター神奈川支部、湘南ホームフレンド居宅介護支援事業所、行政・地域包括支援センター

活動内容概要

・組合員、地域に協同組合が行なう成年後見サービスの主旨、目的、事業内容をアピール
・連携する他団体へのアピールと連携の推進
・成年後見事業に関するスキルアップ研修
・遺言書とエンディングノートの書き方等の研修
・組合員、地域へのチラシ配布活動
・相談窓口の活動
・相談者に対する説明やコーディネート活動
・身元保証支援・日常財産管理支援・身上監護支援・総合支援契約の推進

無料相談の様子

他団体と協同することで発見したこと

・包括支援センターより施設等への入所に際して、在宅独居高齢者の方の身元保証支援依頼があり、成年後見制度と同様にニーズが高まっていることを実感した。
・「遺言書とエンディングノートの書き方研修」には組合員、地域から40名の参加があり、高齢化に伴い、自らのエンディングプランを考える方が増えており、実現のための成年後見制度（任意後見）の認知度向上が益々必要だと実感した。
・他団体講師とのスキルアップ研修により、裁判所の任命が必要となっており、現在は事業化していない法定後見について必要課題が明確になった。

成果と教訓

（教訓）
・「遺言書とエンディングノートの書き方研修」と成年後見制度の利用者拡大として「無料相談会」を組み合わせたが、相談に留まり、利用者拡大としての成果、実績に結びつけることができなかった。
・「法定後見」については、裁判所からの信頼獲得として具体的に①研修制度②賠償責任体制（保険）③活動実績が他団体との交流の中で確認され、②賠償責任体制の検討が課題となった。

（成果）
・神奈川県内地域包括支援センターへの挨拶訪問をのべ92回実施でき、地域への成年後見制度、活動のアピールとともに利用相談10件、新規総合支援契約(任意後見契約)者1件の実績に繋がった。
・「遺言書とエンディングノートの書き方研修」には組合員、地域からも40名の参加があり、成年後見制度活動のアピールが行えた。
・助成金を活用したスキルアップ゜研修を通じて、講師、講師のつてから専門家との連携、ネットワーク構築の足がかりができ、次年度活動講師の拡大へ繋がった。
・助成金を活用した3回の研修を通じて活動参加メンバー23名の成年後見制度の理解と利用者対応でのスキル向上に繋がった。

将来イメージ

・利用者数20名確保（現在13名）による事業採算性の確保
・行政機関を含めた成年後見制度の地域アピール、制度利用者の増と共に福祉クラブ゛生協が地域で組合員とともに作り出している福祉サービス(介護保険を含む家事介護、食事サービス、移動サービス等)を活用した地域セーフティーネットの構築
・研修体制の整備、賠償責任体制の整備による「法定後見」の受任体制整備

おおさかパルコープ

活動名：福祉地域拠点づくり（榎本地域活動協議会と協同し地域活動の推進をめざす）

協同した団体：NPO榎本地域活動協議会

活動内容概要

鶴見福祉センターの開設に伴い、地元の連合町会（NPO榎本地域活動協議会）と協同して、サロンの運営や地域の取り組みに参加し、地域のささえあいの活動を推進することを目的に、地域との連携を強めました。

他団体と協同することで発見したこと

榎本連合振興町会は、2012年12月に、NPO法人に発展し、NPO榎本地域活動協議会として、活動されています。大阪市でも先進的な活動を行なわれている事から、様々な事を学び地域との連携・共存の形が具体的になり、他地域への波及を考えるステップとなりました。

①「あいより」の開催で、地域で起こっている様々な出来事にアンテナを立てて解決する取り組みを毎月開催しています。パルコープも参加し、情報収集に役立っています。

②町会に加入していない人も多く、住民全体への発信や協力について、生協としてできることがあると感じました。

成果と教訓

（教訓）

今後、生協と地域が連携し、地域住民のささえあいについて、大きな視点で取り組んでいける、方向性が見えてきました。

「見守り活動」などは町会だけ、生協だけでなく、行政や地域の企業、住民全体で考えていく事が大切です。NPO榎本地域活動協議会を母体に、協力する人達を増やし、地域住民全体でささえあう状況にしていく事の大切さを実感しました。

（成果）

・鶴見福祉センターの開設をきっかけに、地域の福祉について考える機会となり、パルコープの活動に参加している、福祉や子育て、地域活動の委員さん20名が、様々な視点から福祉地域拠点の今後の方向性を模索し、一定の方向性が明確になりました。

・榎本ふれあいまつり　参加　500名参加

・榎本「盆踊りの納涼の夕べ」　参加　500名参加

・えのもとふれあいもちつき大会　300名参加

・「あいより」（井戸端会議）　毎月30名参加

　※地域コミュニティに興味のある人、地域のあんなこと、こんなこと知りたい人、知らせたい人、の集まりの場です。

・サロンえのもと　毎回　10名程度参加

将来イメージ

・地域ネットワークは、それぞれの思いや悩みなどを持ち寄り、話し合う中で解決しあうための組織で、人と人とのつながりで成り立ちます。そのつながりを維持発展し続けることが、最終的に全ての人がネットワークにつながり、ささえあえ、助けあえる状況に完成するということが明確になりました。

・福祉地域拠点（鶴見福祉センター）が、だれとでも、いつでも　触れ合うことができるきっかけづくりの場となるよう、今後も取り組んで行きます。

・鶴見地域をモデルとし、他の地域にも広げる土台とします。

【テーマ3】

女性と子どもが生き生きする

コープえひめ

活動名：子育て応援　子育てひろばの設置

協同した団体：つばきみらいクラブ

活動内容概要

子育てひろばの開催（毎月第2火曜日）
基本はノンプログラムのひろばだが、11:00～11:30の間にお楽しみ企画（読み聞かせ、移動児童館、親子リトミックなど）を開催し、みらいクラブをはじめ、外部団体への協力を依頼している。参加者へお誕生カードをお渡しするなど工夫もしている。

↑お誕生日カード
（加工前）

↑お誕生日カードに手形を
押している様子

↑移動児童館の様子

他団体と協同することで発見したこと

・ノウハウのない企画を実施できた
・お知らせ活動の幅が広がった
・スタッフの充実

成果と教訓

（教訓）
今までのひろばはコープえひめ単独で立ち上げてきた。他団体と協同することで、上記のようなメリットも生まれ、また、今後のひろがりも考えていくことができる。今回は従来から交流のあった団体との協同で、ゆるやかな関係を持ちつつ、すすめることができたが、新たに関係を築く場合にはもう少し、しっかりとした取り決めが必要となろう。
（成果）
子育てひろばのおもちゃや備品などを木を使ったもので揃えることができ、安心して過ごしてもらえる環境を整えることができた。
　また、ひろばの中で定期的にイベントも開催でき、（店舗でなく）支所での開催にもかかわらず、参加者も他のひろばに比べて安定的に多く来ていただけた。

11月	参加者	3組7人	スタッフ　6人
12月	参加者	14組30人	スタッフ　4人
1月	参加者	11組25人	スタッフ　7人
2月	参加者	14組30人	スタッフ　4人
3月	参加者	14組28人	スタッフ　4人

↑お誕生日会
記念写真撮影の様子

将来イメージ

地域の中に開かれたひろばとして、生協の組合員に関わらずみんなが集える場として定着していく。

ちばコープ

活動名：親子で楽しく安心して集えるSmile八街の森づくり

協同した団体：自主保育Terra、NPO法人WAF子どもネット

活動内容概要

①森の環境整備：道路と原っぱの境界柵の補強としてドウダンツツジを道路沿いに100本植樹しました。また古い看板を再生し森の看板を整備してアピールしました。また森林内の竹や樹木の伐採など再整備を実施し、より安全に利用できるようにしました。

②プレーリーダー養成研修：10月から「自主保育Terra」のメンバーが千葉市のプレーリーダーの研修を受けながら第2土曜日のプレーパーク定期開催を始めました。丸太小屋の森いろり広場を拠点とするため、いろりや周辺のベンチなどを子どもにも安全に利用できるようプレーリーダーの意見を聞きながら整備しました。3月7日には講師を囲み「地域で遊び育つこと」の大切さを話し合う交流会を開催しました。

↑森の環境整備
森の応援団メンバーとみんなで
道沿いの植樹

③石窯づくり：組合員ボランティアと一緒に石窯準備会を結成し、石窯の研究を重ねてみんなで活用できるような石窯の建設計画を立てました。それを元に地元業者を選定し、長く多人数で使えるようなしっかりした石窯を作りました。石窯マイスター講座（入門編）を計画し1月に組合員募集をして2～3月に実施し、今後石窯を活用していける人材育成へつなげました。

他団体と協同することで発見したこと

・いつもSmile八街の森を利用している地域の子育て団体の意見を聞くと、「親子で楽しく安心して集える森づくり」にどのような視点が必要か新鮮な視点が出てきました。例えば看板を適切に分かりやすく出さないと場所がわかりにくいこと、市の広報などをもっと使って地元へ広報活動を充実したほうがよいこと、など。
・子育て団体でもただ遊ぶだけでなく、森の整備などにもその視点で積極的に関わってもらうことも可能。子どもの目線では低木は一部除き、広場のように見通せる場所がほしいなど。いろり周辺の整備に役立つ意見をもらえました。
・業者に頼むとたいへんな出費になるようなちょっとした看板つくりや木工作業などについても地域のネットワークを活かして意外と身近に得意な人材がいて出会うこともできました。

成果と教訓

（教訓）
・ネットワークをつなげていくと、様々な人材に出会え、また、たくさんの人に関わっていただくことで、よりいっそう親近感や達成感が得られることが分かりました。
・はじめて来る人の目線、子どもの目線などに配慮する大切さを知りました。

（成果）
・地元の子育て団体がプレーパークを実施することになり、毎回50名の親子が集うようになりました。
・石窯マスター講座を通じて今後の石窯活用に活動できる人材育成ができました。
・森を使う人たちが少しずつ関わりながらプレーパークひろばや看板整備、石窯づくり、植樹などをすすめることができ、よりいっそう愛着のあるSmile八街の森になりました。

将来イメージ

・プレーパーク活動がブログや新しいパンフレットを通じてさらに広がり、次の世代の子育てへネットワークができていく。（プレーパーク開催日の拡充など）
・石窯の利用を通じて、地域団体や組合員の利用が増え、Smile八街の森の価値が伝わっていく。
・道路沿いのドウダンツツジの生垣の季節ごとの美しさや看板などで地域の一般の方にも親子で安心して楽しめる森の存在をアピールできる。

福井県民生協　ハーツきっずたけふ

活動名：プレママ期（妊娠期）から地域の中で生き生き子育て

協同した団体：NPO法人　子どもセンターピノキオ、助産師ネットワーク　たね

活動内容概要

近年、少子化や核家族化により子育てにおける地域の役割が重要となってくるなかで、子育て支援に関わる者として地域とのつながりを深める事が必要となる。地域の子育て支援センター同士が連携し、子育て中の親子が生き生きと笑顔で過ごしていける環境づくりとして、「母親が気軽に相談できる場」「友達を作ったり情報交換ができる場」を提供する為、プレママ講座、ベビーマッサージ講座、ファミリー運動会を開催した。

↑ベビーマッサージ

↑ファミリー運動会

他団体と協同することで発見したこと

・協同することで単体で活動するよりも幅広い支援ができることを実感した。
・子育てを支援し合う地域づくりとしての役割を担っていることを発見した。

成果と教訓

（教訓）

・今回、初めての取り組みとして協同での活動を行った事で、いろんな方面からの情報や意見を交え、検討することによって、参加者のニーズをふまえた活動へと発展していける事に気付かされ、日頃からのネットワークの大切さを痛感した。
・「なぜその活動をしようとしているのか」という趣旨をしっかり伝えきれていないと、活動に対する取り組み姿勢に差が出てきてしまうという点。

（成果）

・日頃各々の方面で子育てに携わっている団体同士が連携する事で情報交換ができた。
・お母さんの参加がほとんどのマッサージの講座の中でパパ向けの講座を設けることで、日頃お母さんに任せきりになりがちなこの時期の赤ちゃんとの関わり方をお父さんに学んでもらえる機会を提供できた。
・連携、協同を軸に、子育て中の親同士の交流や、子ども達が異年齢集団の中で遊びを通して豊かな心を育むことが出来る場を幅広く提供できた。

将来イメージ

今回の活動に基づき、様々な子育て支援を展開してきたが、残念ながら私達支援者側が利用して欲しいと思う対象者に、うまく届いていない現状もある。今後はさらに連携の幅を広げていけるように「地域」や「人」を結ぶネットワークの強化を図っていき、家庭での子育てを超えて、地域ぐるみで子どもを守り育てあっていくような、新しい地域社会作りへと結びつけていきたい。

北医療生協

活動名：ファミリーサポートプロジェクト　子育てひろば（にじっこひろば）

協同した団体：名北福祉会　めいほく保育園、北保健所・西保健所、上飯田児童館

活動内容概要

・毎週1回4か所での子育てひろば（にじっこひろば）の開催
・4か所すべてのサポーターを対象とした交流会
・4か所のひろばでのサポーター、サポーターになりたい方向けの養成講座
・他医療生協の行っている「親の自主的組織化」を学ぶサポーター研修
・全体での子育て講座
・医療機関、保育園、児童館などの専門家を呼んでミニ学習会

↑にじっこひろば

他団体と協同することで発見したこと

講師としてめいほく保育園や児童館館長などにきていただいた時に、北区全体の子育て状況であったり、今の保育園に行っている子どものことなど具体的に聞くことができ、色々な子育て団体から学ぶことの大切さを実感した。
サポーター養成講座ではおもちゃで遊ぶことだけでなく、布や身近にある物で作成したものでの子どもの喜ぶ遊び方を学び、身近なものでひろばを笑顔にすることができることが分かった。

成果と教訓

（教訓）
全体の子育て講座では子どもの発達はまず耳からのため「音」で学ぶことが大事だということがわかった。参加したお母さんから「こういうのをもっとやってほしい」と言われるなどニーズをつかむことにもつながっている。
全ひろばのサポーターを対象としたサポーター交流会では、サポーターとしての具体的な悩み、良かったことなどの話ができた。悩みなどに対し、自分のひろばではどうしていたかなど相談の場にもなり、学ぶ場・元気の出る場となった。
（成果）
ひろば全体で年間171回のにじっこひろばを開催。のべ6906人が参加している（2月24日現在）。サポーター養成講座・交流会・研修を通じ、サポーターの子どもに対する接し方やあやし方に変化が見られる。また、参加者の親とサポーターの会話が増えてきた。
にじっこひろば全体の参加者の変化としては、参加者の親同士の連絡先の交換が多くみられるようになってきた。にじっこひろばわかばでは、対象年齢を過ぎたため参加しなくなったお母さん同士が連絡をとりあい、にじっこひろばの企画に参加するなどお母さんたちの「あそこに行けばホッとできる」場としての役割を果たしている。
年13回のミニ学習会では、まだ数は少ないが学習会後に相談している姿があり、悩みの解決にも役立っている。

将来イメージ

・にじっこひろばを卒業してもお母さん同士がつながり続けられる場
・「にじっこひろばに行けば相談できるし、安心できるよ」といわれるような場
・参加したお母さんが将来的に北医療生協のとりくみに主体的に参加して楽しさを知ってもらえるようなはたらきかけをする。
・地域の他団体（保育園、児童館、保健所、子育てのNPOなど）と連携し、安心して子育てできるまちづくりをすすめる。

コープぎふ　おたがいさまひだ

活動名：地域の方が集い、交流する場を広げよう

協同した団体：高山市社会福祉協議会

活動内容概要

●2011年7月から行ってきたサロン活動を広め、深めるために高山市社会福祉協議会と協同で以下の場所でのサロン活動をそれぞれ月に1回ずつ行いました。
①飛騨支所のある石浦町公民館（昼食提供あり）
②社会福祉協議会からの紹介の荏名団地公民館（昼食提供あり）
③住宅型有料老人ホーム　グレースシニア荏名でのカフェ
④高山市エコモデル住宅「飛騨高山森のエコハウス」での“おしゃべりカフェ”（昼食提供あり）
“おしゃべりカフェ”は地域にこだわらない誰でも参加できるサロンとして進めており、3月の開催では事前に地域の情報紙「高山市民時報」に開催案内を出しました。その他、認知症グループホームほのぼの朝日ネットワークでも新しくカフェを開催しました。
●サロン活動運営の学習のため、美濃市の「特定非営利活動法人自立支援グループやまびこ」、岐阜県大垣市「ひるい100円喫茶」の見学に行きました。

おたがいさまひだニュース
第5回ねこの手集会 5/24(金) に決定！
2013.3月号

応援者さん大募集中
食べ盛りの男の子のいる家庭の夕方のお食事作りの応援者さんを探しています。特別な資格は要りません。
興味がある方は（090-5117-5452　浜）までご連絡下さい。

1月の活動報告（2012年度累計）
★ 利用件数　29件　（120件）
★ 活動応援者数　24名　（63名）
★ 応援時間数　163時間　（2842.5時間）
★ 応援者登録者数 179名
～応援内容のいろいろ～
・雪かたし・通院介助・ごみ出し・掃除・食事作り・買物・団体訪問

この他にもいろいろな応援があります。お気軽に連絡下さい。

おしゃべりカフェ
おいしいパンとスープを囲んで楽しくおしゃべりしませんか？
どなたでもお気軽にどうぞ！
日時：3月13日（水）
10時30分～13時頃まで
場所：飛騨高山　森のエコハウス
（高山市西之一色町3丁目820－1　飛騨の里下）
参加費：200円

おしゃべりカフェレポート
2月15日（金）森のエコハウスにて子育て中のママさん、応援者さんとそのお友達総勢40名のにぎやかなカフェとなりました。ピザ＆白菜とジャガイモの白いスープを囲んでおしゃべりにも花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。

コープぎふ・おたがいさま　ひだ
事務所TEL・FAX　0577-32-8986
E-mail　hida.otagaisama.@tcoop.or.jp

他団体と協同することで発見したこと

社協さんの情報網やつながりのおかげで催しをすることが出来たり、他団体との新たなつながりが出来ました。ネットワークが確立しているといろいろな面で選択肢が広がり、いろいろなバージョンのサロンを作ることができるのだと感じました。

成果と教訓

（教訓）
「はじめたからにはとにかく続けよう！」という思いで続けてきました。
続けることにより少しずつですが認知されてきていると思います。それぞれの地域に行くので準備などが大変だったり、交通費以外はボランティアなのでスタッフの確保が難しい時もあったり、参加者が増えるに連れ場所が手狭になったりなどの課題もでてきました。それでも「ありがとう」「おいしかった」という言葉が、継続のエネルギーとなっています。
長く続けていくためには、サロン活動を軌道に乗せている「やまびこ」さんや「ひるい」さんのように地域の人や市や社協さんとうまくつながっていくことが必要なのだと改めて思いました
（成果）
・地域で実績と信頼のある社協さんと協力することにより、町内の方や他団体の方とも新たなつながりができました。サロンをいろいろな地域で行うことによりそれぞれの地域の特色やニーズを知る事ができ、おたがいさまの応援活動の参考にもなりました。
・他団体への見学を通じて、自分達のできないところは市、社協、他団体と連携をされていて、私達もこんな風につながっていかなくてはいけないと思いました。また、住民が中心になって運営することで何も催しをしなくても十分地域の輪を深め、役に立っていることを確信できたりしました。

将来イメージ

“おしゃべりは元気の源”。サロンを通して「楽しく子育てができ、年をとっても安心して暮らせる地域のお手伝い」ができ、私達も多くの方とつながり楽しくサロンを続けていきたいと思います。これからますます高齢化を迎える地域なので、元気の源の“食べること”に力をいれ、おじいちゃんおばあちゃんが作った食材も利用してお惣菜やお弁当作りに挑戦してみたいです。

コープこうべ

活動名：小学生の放課後サポート事業「コープ放課後キッズクラブ」

協同した団体：NPO法人子育て支援ネットワークあい

活動内容概要

学校での学習やコミュニケーションが苦手な小学生を対象に、放課後のホッとできる居場所を提供し、少人数の中で、学校での宿題や、遊びのサポートを行う。障がいのない児童の受け入れも行い、障がいの有無に関わらず、地域の中で子ども同士が成長しあい、また、地域の大人が関わることで、子どもの成長を見守り育む。神戸と姫路の2箇所で開催。

2012年度参加者募集

コープ放課後キッズクラブ

学校での学習や友達との関係などにお悩みや不安はありませんか？
学校の授業を中心とした学習サポートをおこないます。
でき る居場所として、
宿題の時は、自由遊びでゆったりすごしましょう♪♪♪

2011年度に兵庫県の補助事業としてはじまった「コープ放課後キッズクラブ」。
2012年4月10日(火)より、内容の一部を変更し、新たにスタートいたします。

【神戸会場】
◇ 会 場 ： 西地区会館
（JR住吉駅西へ徒歩3分）
◇ 開催日 ： 火・金コース
◇ 時 間 ： 15:30～18:00
◇ 対 象 ： 小学1～6年生
◇ 定 員 ： 各日6名程度（先着順）
◇ 参加費 ： 1コース（1ヶ月4回開催の場合） 3000円
単発申込みも可 1日800円
別途 年間登録料 1000円（保険代等）が必要です。

※ 専門家によるコミュニケーション支援や運動プログラム（有料）を該当者様へ予定
※ いただきました個人情報はこの事業に関することにのみ使用させていただきます。

<問い合わせ・申し込み>
生活協同組合コープこうべ 生活文化・福祉部
TEL：078-431-9383（9:00～17:00）
〒653-0051 神戸市東灘区住吉山1-3-30 生活文化センター西館

他団体と協同することで発見したこと

発達障がいの疑いのある子どもたちの保育経験を持つNPO法人「子育て支援ネットワークあい」と連携することで、具体的なこどもたちへの働きかけ方のノウハウや保護者に対するケア（子どもの様子を伝える、保護者の悩みを聞く）などを専門家ではないスタッフが身につけてることができた。

成果と教訓

（教訓）

発達障がいのあるなしに関わらず、気軽に利用でき、かつ少人数制で丁寧にスタッフが関われる場として設定していたが、利用者が伸び悩んだ。高機能の療育プログラムと一般の学童保育の間のニッチを狙ったつもりであったが、保護者・子どものニーズをとらえることができなかったと考えられる。

保護者からの問い合わせは多く、利用前の面接をした人数は多かったが、最終利用に結びつかない事例も多発した。保護者は利用させたいが、子どもが行きたくないというのが一つの理由。保育園・学童と違って、保護者よりも子どもの意志が反映される領域であることも学童期の放課後の取り組みのむずかしさであることが分かった。

（成果）

取り組み自体の評価としては、最初は全く友達と関われなかった子どもたちが、相手の存在を気にするところから始まり、人や場になれることで徐々にかかわりを持てるようになり、それと同時に、保護者の方の表情にも変化が見られた。

子どもが学校で先生や友達になかなか受け入れられないという悩みを抱える保護者にとっては、子どもが受け入れられる第3の居場所として受け止めていただき、サポートができたと考えられる。コミュニケーションが苦手であることで受容されにくい子どもとその保護者にとって、安心して受け入れられる場と人の必要性は強く感じた。

年間参加者数：神戸会場のべ157人　姫路会場のべ56人　合計のべ213人

将来イメージ

今回の取り組みを通じて、地域で安心して遊べる場所も少なくなり、地域の大人と関わる機会も減っている中で、親の就労に関わらず、また、障害のあるなしにかかわらず、一人一人を受容して丁寧にかかわっていくことができるような小学生の放課後の居場所は必要であると感じた。高機能の場を有償のスタッフで有料の取り組みとして進めていくのか、地域の居場所の一つとしてボランティアで支えていくのかなど方向性を見極めることは重要。当面は、今回培ったノウハウをもとにボランティアの仲間を増やし、身近な場所に場が開けるような取り組みを進める予定。

コープ自然派奈良

活動名：生き生きコミュニケーション・楽しく子育て

協同した団体：ナチュラルコミュニケーションセンター

活動内容概要

◆子育て心理学講座：自分を信じて生きる～自己肯定感を高めるために必要なこと～
講師：　松木正　氏（マザーアース・エデゥケーション）
◆親子料理：ぐりとぐらのパンケーキを焼こう
◆子育て広場：子育て講座（自己肯定感を育てる講座①）
◆子育て心理学講座：いじめ・パワハラに対処するコツ
講師：伊田広行　氏（立命館大学非常勤講師）
◆講演会：しあわせな瞬間
講師：中川李枝子　氏（絵本作家）
ぐりとぐらの作者　中川李枝子さんの講演会をなら100年会館で行いました。
当日は67名というたくさんの方にお越しいただきました。奈良だけではなく大阪・京都・兵庫からも参加がありました。

◆子育て広場：子育て講座（自己肯定感を育てる講座②）

他団体と協同することで発見したこと

他団体と協同することで、より専門性をもった活動ができたように思います。また、活動事態も通常よりも幅広く行えたと実感しています。
参加者の方々への対応も、より細やかにニーズに応じた対応ができたのではないかと思います。

成果と教訓

（教訓）
協同事業ということで、会計なども含めたそれぞれの団体での役割分担をはっきりとさせることの大切さを感じた。
（成果）
①自分を信じて生きる～自己肯定感を高めるために必要なこと～
参加者数：44名
②ぐりとぐらのパンケーキを焼こう
参加者数：28名
③子育て広場：子育て講座（自己肯定感を育てる講座①）
参加者数：8名
④働くことが楽しくなるように、職場や学校の人間関係を見直そう
参加者数：13名
⑤幸せな瞬間
参加者：67名
⑥子育て広場：子育て講座（自己肯定感を育てる講座②）
参加者数：6名
参加者数　合計166名

将来イメージ

この事業をきっかけに、子育て広場や子育て講座への参加者を増やし、子育て世代へ広く心のサポートをしていきたいと思っています。
子育て不安や虐待の防止ができるような活動に広げていきたいです。

明日のくらし、ささえあう
CO·OP共済

地域ささえあい助成

― 生協と他団体が協同する活動を応援します ―

2012年度募集のお知らせ

**CO·OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。
コープ共済連はCO·OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。
その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して
地域のくらしを向上させる活動を支援します。
全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。**

応募期間　2012年6月1日～6月30日

1 対象となる活動のテーマ

①「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」

例　地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例　病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」

例　子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

①～③のテーマのいずれかに該当し、かつ生活協同組合とNPO等が協同して力を発揮することのできる取り組みであること。ただし、生活協同組合同士のみの協同の活動は除きます。

東日本大震災による被災地での上記テーマの活動については、選考において優先して取扱う場合があります。

①～③のテーマのいずれにも該当しない活動（環境問題等）は助成の対象にはなりません。

2 対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記全てを満たす団体を対象とします。

生活協同組合または、その他のNPO法人等

- **今後設立予定の団体でも構いません。**
- **次の①、②いずれかを必須とします。**
  - ①生活協同組合以外の団体が応募する場合には、活動内容が生活協同組合と協同して行うものであること
  - ②生活協同組合が応募する場合には、生活協同組合以外の団体と協同して行うものであること
- **選考の過程で、事務局より生活協同組合に電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。**

3 対象となる活動期間

2012年度は、2012年9月21日～2013年3月20日の間に実施する活動が対象です。

※次年度は2013年3月21日～2014年3月20日までとし、以降は1年間に実施する活動を対象とする予定です。対象期間の変更にあわせて、募集期間も変更になる予定ですので、ご注意ください。

4 助成内容

助成上限額は、1事業あたり30万円程度～100万円です。助成総額は2500万円を予定しています。

当年度において、1団体あたり1件のみ応募することができます。テーマや活動内容が異なっていても、複数件の応募をすることはできません。

◆助成の対象となる費用

- 活動に直接関わる経費（資源費、消耗品購入費、旅費交通費、借上費、印刷製本費など）
- 謝礼金（講師謝礼、指導料など）

※ただし、活動に直接関わる団体スタッフの賃金は対象外です（下記参照）

◆助成の対象にならないもの

- 賃金
- 飲食費、接待費
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

5 選考

以下の選考基準に基づき、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会で決定します。

選考基準

- 生活協同組合と地域のＮＰＯ法人等との協同により成り立つ活動であること
- 計画の実現性
- 予算計画の妥当性
- 対象者のニーズに基づく活動であること
- 多様な地域住民の関わりや参加度
- 活動内容の新規性、先駆性（応募する活動に限らず、従来よりそのような活動を率先的に行っている実績があれば、それも考慮する）

同一の団体に継続して複数年に渡り助成を行う場合、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、申請より一部減額の上で助成が決定する場合もあります。

選考にあたり、事務局より電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。

6 活動報告

助成を受ける団体には、活動中および活動終了後にA4用紙2枚程度の活動報告書をご提出いただきます。また、報告書提出の他に、活動状況のヒアリングや取材受け入れをお願いすることもありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告書の提出状況および内容については、コープ共済連のホームページや発行する冊子等に掲載し、ご紹介させていただく予定です。

7 応募方法、提出書類

①応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記のお問い合わせ先まで電子メールかFAXにてご請求ください。

URL **http://coopkyosai.coop/topics/ns_120501_01.shtml**

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

②応募方法

応募にあたっては、下記の書類を事務局宛にご送付ください。

※FAX、電子メール、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 団体設立時の定款、規約など（ご不明な場合はご相談ください）

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会
渉外・広報部
地域ささえあい助成事業事務局宛

TEL **047-351-3356**
FAX **047-351-5298**
メール **kyosaiinfo@coopkyosai.coop**

応募書類提出先

〒279-8588　千葉県浦安市入船1－5－2
コープ共済連　渉外・広報部
地域ささえあい助成事業事務局宛

ＣＯ･ＯＰ共済 地域ささえあい助成
2012 年度（第 1 回）　活動報告書

発行日：2013 年 7 月
発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
（渉外・広報部）
〒279-8588　千葉県浦安市入船 1-5-2
(TEL)047-351-3356

CO·OP共済 地域ささえあい助成
2012年度 活動報告集